

たじみん昼話 122

答えはあなたの中にある

学校と会社のシステムや目的は、異なるものと考えられている。これは、学校はお金を払って行く所だが、会社は労働して対価をもらう所という認識や、学校の目的は人間を成長させることだが、会社の目的は社会貢献や利益を追求することと理解されているからだ。

しかし社員を発掘し成長させなければ、会社の維持と発展が望めないのは自明だろう。即ち、人を成長させるという点で両者の目的は同一なのだ。

この社員の成長に欠かせないのが社員の資質に加えて指導者や先輩の指導だ。指導のポイントは、最近の教育学の論文を参考にすると、「いかに本人が深く考えるように導くか」だ。つまり、指導者の役割は、「次は、こうしろあーしろ」と命令することではなく、「あれはどうしてあのようによったのか。次はどうすればよいと思うのか。」という質問を通して、本人が深い思考を行えるように導くことなのだ。

この研究者の知見の根拠は、他人に教えてもらった答えはすぐに忘却するが、自分で出した答えは、知識から知恵に昇華して忘れなくなることに起因する。

つまり、成長のカギも課題に対する解答は、既に生徒が持っているので、指導者は、その思考過程を生徒に経験させて、自らの答えを上手く引っ張り出すように仕向ければ良いということだ。

先回のつぶやきで、多治見高校は不親切な授業を行っていると述べた。その真意はここにあるのだ。

だから多治見高校の教師は、生徒に真の学力を付けたいところでは、簡単に教えないで導いているはずだ。この理由は、生徒が自ら考え抜く経験を通して、創造的な転用が可能な知識とそれを昇華した知恵としての真の知識、そしてそれを可能にする思考力を習得して欲しいと、教師が考えているからだ。

最近、「どうしたら成績が良くなりますか?」という質問を受けることが多い。

この問いに対する桔梗の答えは1つだ。「答えはあなたの中にある」